

# 研究室の安全衛生を維持するための取り組み

愛媛大学 工学部等技術部 機械・環境建設系技術班  
白石 僚也 ( Ryoya Shiraishi )

キーワード：安全衛生，研究支援，4S

## 1. はじめに

ものづくりの現場において安全は最優先事項であり各職場で様々な対策が取られている。また衛生的な環境づくりも快適な職場環境を実現するだけでなく、安全面で大きな効果があり、関連性が強いことから

「安全衛生」という一つのジャンルにして取り組んでいる事業所が多い。大学においては教職員が学生に安全かつ衛生的に実践に取り組めるように指導・管理する事が求められる。安全衛生を維持するための重要な行動は「4S」であるといわれる。4Sとは①整理，②整頓，③清潔，④清掃のことである。即ち、大学では学生に4Sについての教育を行い、実践する取り組みが必要不可欠であると考えられる。本発表では、発表者が普段研究支援をしている研究室において行った安全衛生に関する取り組みについて報告する。聴講者の皆様のご参考にしていただければ幸甚である。

## 2. 安全教育

年1回4月に研究室に新たに学生が配属されたタイミングで安全衛生教育を行う。

安全についてはまず研究職における災害事例を紹介し、災害の恐ろしさを知ってもらう。次に主な災害の発生原因について説明し、その具体的な対策について教育する。例えば、「適切な保護区を使用していなかった」という原因に対しては保護具の使用を呼びかけることはもちろんのこと、保護具の効果や正しい使用方法について説明している。また、万一災害が発生した場合には、「一人で対処しようと思わず、まずは周囲に助けを求めること」「救命救急講習に参加すること」「AEDの設置場所」等についても教えている。

## 3. 衛生教育

衛生教育ではまずなぜ衛生的環境を作る事が大切なのかを教育し、それから4Sの各項目について具体的な取り組み方を写真を使って解説する。

## 4. 日常における取組とその成果

教育を行うだけで安全衛生のできた環境が構築・維持されることは稀である。本当に安全かつ衛生的環境を維持するためには、「いつ・誰がやるのか」を明確にして4Sを習慣化する必要がある。そこで、「いつ」については毎週1回、4Sがきちんできてきているか確認する「見回り」と、毎月1回大掃除をすることになっている。また「誰が」については実験室を区画分けして区画ごとに責任者を定め、4Sについて管理するよう指導している。こうすることによって後回しにしたまま放置したり、自分の責任ではないからといって放置することがなくなる。4S活動を本格的に実行し始めた2016年の秋では1回の大掃除に丸一日を費やしていたが、今では週1回の見回りの際に15分程度作業すれば4Sが常に維持できる状況となっており月1回の大掃除は省略されることも多い。また、区画責任者を定め、責任感を持って取り組ませることにより学生の意識も高まり、最近ではお互いに注意しあって安全衛生の維持に努めようとする姿勢も見られるようになった。

## 5. まとめ

研究室の安全衛生を維持するためにはまず学生に安全衛生教育を行う必要がある。またいつ誰がやるかを明確にして4Sを習慣化させるように教育する事が大切である。